

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

KEIWA

COLLEGE REPORT

第2号

(JULY 1993)

発行/敬和学園大学広報委員会



CLOSE UP 英語の先生 北垣 宗治

INTRODUCTION / SPECIAL REPORT
教員紹介 / 特集 就職戦線始動!!

就職ガイダンス講演要旨/新入生歓迎講演会報告

リレー随想 チャペル便



4月5日、第3回入学式が聖籠町民会館で行われました。会場は、新発田市民文化会館と交互にお借りすることが申し合わされております。当日は始めて専任教員全員が黒のガウンとキャップをかぶって出席いたしました。また保護者も150名ほどの出席があり、来賓に新発田市長、聖籠町長、後援会長、理事者をお迎えして、おごそかで素晴らしい入学式でした。

式後には本学大教室において、敬和学園大学後援会総会が開催され、新役員の選出等があり、その後にはオレンジ・ホール及びオレンジ・ホール・アネックスにおいて後援会主催の昼食会を行い、なごやかな歓談のひとときを送りました。

1993年度 敬和学園大学入学式



もくじ

英語の先生…北垣宗治…	1	1993年度 第3回新入生オリエンテーション…	7
新入生歓迎講演会報告…	3	特集 就職戦線始動!!…	8
教員紹介…	4	就職ガイダンス講演要旨…	9
ゼミ紹介 国際関係演習Ⅰ…	6	学生の声…	
第3回敬和学園大学公開講座…	7	企業のことについて考えること…飯沼正志	11
1993年度授業科目SYLLABUSについて…	7	リレー随想 チャペル便…	12

CLOSE UP

英語の先生

敬和学園大学長

北垣宗治

昔の英語の先生を思い出す。私が旧制の中学で初めて英語を習ったのは太平洋戦争が始まって五ヵ月たった一九四二年四月のことだった。そろそろ英語には「敵性語」の烙印が押される頃だった。女学校では英語が必修科目から外されはじめた。

私の入った中学で小菅修一という若い先生からABCを習った。最初は発音の訓練で、先生はすべての生徒に万国発音記号を手ほどきし、着席順にどんどんあてて発音の訓練をしていかれた。なかなか手厳しいことがあって、生徒が萎縮してしまうようなことはなかった。戦時下ではすいぶんこわい先生がいて、理科（当時は物象「ぶっしょう」と呼んでいた）の先生はクラス全体を恐怖の雰囲気の中におどしりて授業する人だった。私はそのため物理という科目がすっかり嫌いになってしまった。英語の小菅先生はそうではなく、もつと冗談を言ったり、生徒をからかったりしながら授業を進めていた。先生は私のことを「おい、むねはる、胸を張れ」などと言ったり、「次はそうはるさん」、と言って、あてたりされ

た。私の名前は「むねはる」で、音読みにすれば「そうじ」がふつうで、「そうはる」といった読み方はありえないのだが、先生はそういう冗談を言うことによって、二〇名もいた生徒の名前を全部覚えようとしたのだろう。

小菅先生はリーダーの一課が終わると、それを丸暗記させるのが常であった。それは地味ではあるが、初步の英語の勉強法としては最良のやり方であったと私は思っている。これが英作文の力をつける。これが英語のリズムを覚えさせる。これが単語を活きた姿で習得させる。これが英語会話能力の基本を構成する。リーダーの丸暗記はどうい方法ではないと、私は今でも確信している。

小菅先生の英語の発音は非常によかった。発音の悪い教師に英語を教えてもらった生徒こそは災難である。その点、私は非常な敗戦後、復員した先生から、また英語を習った。先生は時として脱線することがあったし、その話は人生の教訓を含んでいて、面白かった。先生は生徒を上手に誉めることができた。私は一度、北垣は質問をよくする、それはよく勉強している証拠だ、よろしい、といって誉められたことがある。だから先生は逆に、私の顔を見ると、「むねはるさん 質問はないかね」と、水をむけて下さることがよくあった。同級生の中にはこれをよいことにして、予習が不十分な場合には「おい北垣、今日はいつもの二倍くらい質問してくれ」などと、授業の始まる前に余計な注文をつける者までいた。

生は敵の捕虜を親切に世話をされたので、戦後、捕虜虐待のゆえに裁判を受けた軍人がいたけれど、先生に非難の矛先を向けた捕虜はなかつたと聞いている。先生は大阪外国语学校を首席で卒業した秀才で、その発音はアメリカ教師グレン・ショーからじかに習ったものだったと、あとで教えられた。してみると、私の発音も多少はグレン・ショーからくるのかもしれない。

敗戦後、復員した先生から、また英語を習った。先生は時として脱線することがあったし、その話は人生の教訓を含んでいて、面白かった。先生は生徒を上手に誉めることができた。私は一度、北垣は質問をよくする、それはよく勉強している証拠だ、よろしい、といって誉められたことがある。

だから先生は逆に、私の顔を見ると、「むねはるさん 質問はないかね」と、水をむけて下さることがよくあった。同級生の中にはこれをよいことにして、予習が不十分な場合には「おい北垣、今日はいつもの二倍くらい質問してくれ」などと、授業の始まる前に余計な注文をつける者までいた。

CLOSE UP

卒業を前にしたある寒い日に、小菅先生の最後の授業が行なわれた。今日は最後だから先生からは何かお話をされるだろう、英語は読まれないだろうと、私たちはたかをくくっていた。すると先生は、「君たちは今日は英語を読まないとでも思っているのか。心得違いをしてはいかん、今日は最後だから、しっかりと英語を読む。はい北垣君」と、さっそくあてられてしまった。不意をつかれた私はしどろもどろだった。先生は平然と、しかしいつもよりは丁寧に、私の犯す間違いを訂正しながら授業を進めていかれた。それは忘ることのできない授業だった。

小菅先生はいまもお元気で、毎年一月に大阪で行なうクラス会に出席することを楽しみにしておられる。このクラスでは、いま長岡市の教育長をしている大西厚生君（もと長岡高等学校長）も机を並べて勉強した級友である。大西君は小菅先生にどんな思い出をもっているだろうか。

その大西君は広島大学に行き、私は同志社大学の英文学科にはいった。教職課程ははじめから設置されており、私は何の迷いもなく教職科目を取った。「教育心理学」の授業は土曜日の午後一時から大教室で行なわれた。担当のE教授はまじめに授業されけれど、これは私が大学に在学中聽講した科目のうちで、いちばん面白みのない授業だった。そのせいでもあろうか、私はいまその内容を何一つとして思い出すことができない。おまけに昼食後の授業は眠くてやりきれなかった。私はそのうちにまじめに出席することをやめてしまった。この科目はお情けの六〇点で合格した。十数

年たってからE教授は文学部長、私は教務主任で、親しくしていただいた。ある時は、先生の授業はまったく面白くなかった、よくあんなに面白くなく授業ができたものですね、と申し上げた。先生の方は平気で、「君、授業は面白くすべきじゃないよ、授業は面白くなくあるべきだ」といわれた。私はいまだにこの考え方に対するE教授は数年前、他界された。

「教育原理」という科目を教えて下さったS教授はノート型の講義をする人で、自分のノートをゆっくりと読み上げていき、区切りが来るとそれにコメントをつけられた。どうかすると脱線がちで、愉快な話も沢山でた。S先生は「右手に新約聖書、左手にゲーテのファウスト、耳にはベートー・ヴェンの音楽」がモットーで、黒板にお書きになるギリシア文字はとてもきれいであった。一年間聞いた教育原理からは、さきほどのモットーと、バイディアというギリシア語が残った。

「英語科教科教育法」のC教授の授業はとりとめがなかった。種々雑多な知識を与えたけれど、どうも「貫性がない」という気がした。そのうちに、傲慢にも、そんな授業ならこの私にだってできそうだ、と思うようになつた。皮肉にも二十年ほどたつて、私はピンチヒッターとして、一年間だけ英語科教科教育法を教えさせられる羽目になった。私も又、種々雑多な知識を並べてお茶を濁してしまった。だからあの時の学生の中には、「あんな授業ならこの私にだってできそうだ」と感じた者がいたのではないかと、いま、冷汗をかきながら思

高等院校に行つて、実際の授業を二、三日見学した。実習校の同志社女子中学では、たつた一時間だけ実習させて下さった。それでも前の日一日をかけて授業の準備をしました。夜は興奮のあまり、眠れないほどだった。女生徒たちは明るく、はきはきしていて、あつという間に五〇分間が過ぎた。用意した「教案」のうち三分の一もこなすことができなかつた。担当のどっしりとした女の先生は、「まあ、あれでいいでしょう」と言って下さった。

偶然、私の娘も同志社大学の英文科を卒業した。そして、教育実習は母校の同志社女子中学だった。娘の場合は実習にまるまる一週間を費やした。私はあの二週間ほど興奮した娘を見たことがない。毎日が喜びであり、発見であり、輝きであり、涙であった。生徒たちは娘になつき、尊敬し、担任の先生よりも教生の北垣先生のほうがうんと上手に教えるし、英語が面白くなつた、と口々に言つたそうである。娘のその頃、英語の先生になるつもりでいたようだが、結局その道を選ばず、好きな人と結婚して主婦になつてしまつた。

敬和学園大学は教職課程を持たずに開学した。そこまでは手がまわらなかつたというのが正直なところである。入学してきた学生の中にも、教員免許をとりたいと熱望する者がいることを知つた。また、新潟県下の高等学校を訪問してみると、英語英米文学科があるのだから、ぜひ英語の免許がとれるようにしてほしいとの要望が強かつた。四年制の大学ができれば教職課程は自動的にできるくらいに、漠然と考えていた

CLOSE UP

が、課程の認定を文部省から受けなくてはならないこと、それにはどうしてもあと二人、教職の専門科目の担当者を採用しなくてはならないことを知った。それは簡単なことではなかった。さいわい、新潟大学教育学部の斎藤勉教授のご親切な指導のもとにカリキュラムを作り、国内の各地を探してまわったあげく、ようやく京都大学教育学部長の岡田渥美教授が「教育本質目標論」担当者の柴沼晶子教授を紹介くださったことで見事に道を開けた。「発達と学習の教育心理学」には新進気鋭の益谷真専任講師を大阪から迎えることができた。

今や教職課程はここに私が書いたような、古いのんきな時代ではなく、もっと厳しい時代にはいっている。次代の若者を教育する中学・高校の教員を養成するのであるから、教員になるための知的・道徳的訓練は当然厳しいものであることが要求される。

英語英米文学科で教職課程を履修する学生は普通の学生よりも二一単位分の「教職に関する科目」を余計に取りさえすればよいのである。それほどきついとは私は思わない。しかし油断大敵である。教職課程を全く見てはならない。ことに、二週間にわたる教育実習とは真剣に取り組んでほしい。

私の念願するところは、その先生のゆえに中学・高校の生徒が英語を好きになるような先生が一人でも多く、本学から輩出することである。

ラブキヤナール事件を



新入生歓迎講演会

東京大学法学部教授藤倉皓一郎先生を講師にお迎えし、「地球上に何を返せるか」と題し、「敬和学園大学新入生歓迎公開学術講演会」を開催した。先生は同志社大学大学院在学中、新島スカラードに選ばれて、アーモスト大学に留学。ノースウェスタン大学及びハーバード大学で法学修士号を得た後、母校の同志社大学法学部に戻り、英米法を教授。一九八一年私立大学出身者として初めて東京大学法学部教授に抜擢された。一昨年、アーモスト大学から名誉法学博士号を受け、英米法、不当行為法、比較環境法を専攻しておられる。

講演内容は、(1)地球環境・一般環境に何が起こっているか (2)なぜこういう状況に立ち至ったか (3)私達に何ができるのかの三点に分けてお話ししたい。

まず(1)について、先生が環境問題に興味をおもちになつたきっかけとして、子供の頃徳島県の漁村で過ごされ、泳いだり魚を取つたりしていたが、一九五〇年代から新産業都市政策が始まり、自然破壊が始まつたことを目の当たりにしたためであるとし、その頃から病問題を持ち上がり、現在に至つていて、アメリカにおいては、

例に挙げ、「ここ十年ほど前から自然破壊に気が付いてきた旨の説明があった。

(2)について、a、経済の仕組みが市場経済であることから、物の値段を通して人の欲求にどの程度応えるかが基本的な考え方になり、イギリスを例に挙げ、町の中心に牧草地があり、住民の家畜を放牧していたが、牧草が豊かであるが為に家畜の数を多くした結果、数年後には牧草を食べ尽くし、草がないところに雨が降ると土砂が流れ、荒れ地になってしまった。これが公害の始まりであること

b、経済は利益を追及することが基本にあり、自然には値段が無いことから軽視してきたこと、また自然破壊による被害は、利益を追求した人へではなく、一般住民が被っていること c、自然破壊の被害はすぐに現れるのではなく、次の世代に引き継がれてきたことを挙げた。

最後に(3)として、現在の法律、経済、政治で解決するのは難しい。私達一人一人がもつてゐる生き方の物差しをもう一度検討することと、価値観を変えることが必要である。以前は土に帰せるものを作り、それに価値を見いだしていた。自然は永い間次の世代に受け継がれてきた。これを信託といい、見えないものの(子孫、他の國々)の利益を尊重すること。フェア(公平)、ケアー(他人のことを考える)、シェア(分かち合う)この三つを価値判断するときの重要な基準として考えることが、私達が地球上に何を返せるかという答えにつながるであろうと結論された。

教員紹介

小野 哲



大分で生れ

東京に育ち、

鈴鹿から兵隊

で南京に。帰

還して西宮か

ら同志社の二

課程に復学。

天皇機関説を

高師の教生か

ら教わり、航空隊でドイツ人将校に機関整

備を習い、同志社では行政学と社会機構な

どを学びました。それで卒業して大学院そ

して専任。やがて権力論とイデオロギー論

と国家論を編成して政治学などを講じて来

ました。

夢のまに四十年たち国際政治文化に踏み

込んでいるのに気付いた頃、敬和大によば

れました。私は勇んで極東の海洋国の国際

政治と日本海文化の渦流にバイブル力で漕

ぎ出そうと思っています。羅針盤は環境・

人間・技術論です。

新発田聖籠の北緯三八度は綴喜興戸の三

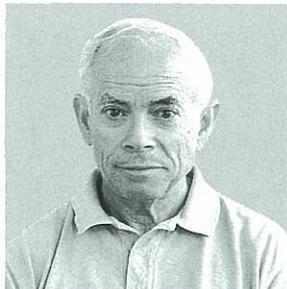
四度に次ぐ新たな故郷になるでしょう。私

にはそれより北は英國インバネス五七度と

アイスランド六四度が思い出の地なのです。

いつか樺太と北極圏にもゆきたいと思いま
すが。

サンフオード・M・ゴールド スティン



四十年前、日本を初めて訪れて以来、私は日本の学生に関心をもって参りました。

私は四十年間新潟大学で五回、長崎大学で一回、それぞれ二年ずつ、合計十二年間教えてきました。

敬和学園大学に来ることになつて七回目の滞在に入つたところです。私自身にとって、日本語の勉強は非常に難しく、又そ

れは私が四十一年間それ程の成功もなしに

学んできた言葉であるせい

かも知れません。またそれと同じくらい私には英語がい

かに難しいかわかります。この点で、私は

日本の学生に大変同情しております。しか

しこの事は英語が難しいから学生は学ぶこ

とができるないという事を意味するわけでは

ありません。それどころか、私は日本で、いつも英語の優秀な学生に出会つてきました

た。私の教え子の中にも、英語に非常に優れた学生があり、その多くが大学や中学、高校の教員になりました。したがって、私はずっと日本の学生が有能であることを信じてきました。そして敬和でのここ二ヶ月で、すでに私は多くの優秀な学生を見い出しております。それでもなお、アメリカ文史から批評、英会話に至る全ての授業において、私の目的は学生にその内容を十分に伝え、彼らに反応をひきおこすことです。私は学生が授業にきちんと出席し、理解しようと努力し、反応を示してくれることに信をおきます。私は学生に対し厳しい事もありますが、それは彼らに関心を抱いていないという事ではありません。私は学生のことを大変気にかけております。そして敬和での私の願いは、学生が英語に上達し、敬和学園大学により評価をもたらす事です。

敬和学園大学は始まつたばかりです。敬和の学生の懸命な努力が敬和の評価につながると思います。こうした意味で私は想像上の敬和の旗をふる応援団の一員です。私は敬和学園大学を信じます。そして自分達の能力とともに自分達の大学である敬和の評判を高めるような学生を生みだせることを願つてやみません。

浅野幸穂



「国際関係演習」を担当する。

教育という新しい任務が付け加わって発見したことの一つは、国際化時代と言っている割には現代の学生がもつ国際情勢についての認識、とりわけ関心が高くなっている。必死に自分や日本の生きる道を探ねていた時代にもつっていたものを、ゆたかで平和になる過程で失ったものであろう。むしろ幸せというべきかもしれない。しかしこれからも「平和でゆたか」でいられるかどうかは保証の限りでない。新発田からの発信が今すぐむりでも、世界の鼓動は誤りなく聞き取らねばなるまい。

そう考えて現在、世界、とりわけ途上国で起こっている問題を授業の時に投げかけてみている。議論の火花が散る日が早くすることをたのしみにしている。

此木沼品子



現在三年生が母校の中学校や高等学校に「国際関係演習」を担当する。

教育実習のお願いに伺つておりますが、近い将来実習生の指導を引き受けてくれる卒業生が出てくれることを期待しながら、益谷先生と教育実習の事前指導のプログラムを進めています。妙高少年の家の研修もそのひとつで、学習の体験化をしております。私も身体を使うことが好き、グリーン・クラブでも作ってキャンバス花いっぱい運動に取組みたいのですが…。

西澤昭夫



日本合同ファイナンス株式会社企画部長、NOMURA／JAFCO INVESTMENT（ASIA）LT

塩屋保

生まれは山口県岩国市です。中央大学法学部とパリ大学で「国際法」を、中央大学大学院とストックホルム大学大学院で「国際政治学」を勉強し、その後、スウェーデン・ウppsala大学平和紛争研究所で「平和学」の研究をしました。ヨーロッパ生活は十年近くですが、その間、勉強ばかりしていたわけではありません。大学で日本語を

一九四九年上越市生まれ。新潟大学人文
学部卒業。東京教育大学大学院、筑波大学

教えたり、スウェーデンの企業に勤めていたこともあります。帰国後は、東京の大学で「国際政治学」、「国際政治史」、「ヨーロッパ地域研究」などを教えてきました。大学以外では、在日スウェーデン大使館で広報資料の作成や、NHK 国際局で北欧向けスウェーデン語放送の番組モニターもしました。

今年四月に敬和学園大学に就任しました。担当科目は「国際関係論」と「平和学」。難解な科目ですが、これまでの学問的、実務的経験を活かして、可能な限り分かりやすい講義にしたいと思っています。

益谷 真

九三年度から教職課程の教育心理学と教育工学関係の科目を担当しています。

これまで同志社の大学院博士課程で人間の認識活動と感情の問題を中心に研究指導を受け、課程終了後に同志社大学や平安女学院短大などで、教育心理学、心

理学実験演習、行動観察などを担当していました。

エソロジー（比較行動論）を発想上の着

火点にして、人の行動習性や発達と社会化について実証科学的なアプローチをとっています。最近、サイエンス社から『顔と心』という本を出しました。研究論文だけではなく、このような一般向けの入門書などもどんどん刊行し、敬和学園大学の存在を日本全国に知らせていくべきです。

学生諸君には、人がいかに学ぶのかについて知つてもらうと同時に、学ぶことの楽しさも気づき、生涯学習の出発ができるよう鼓舞しています。

千葉 愛子

「考へなさ

い」と高校時

代よく言われ

たが、私は何

を考えるのか

らわかるってい

なかつたと思

うようになっ

たのは、しばらく経つてからだった。いつ

も正答のある問題を解いていた私達に問わ

れていたのは、与えられた問題をいかに速

く正しく解くかということ、正答を導く法

則をいかに多く覚えるかであり、考えるべ

き問題（トピック）は常に与えられていた。

卒論やアメリカ留学時代に論文を書く作業を通して、対象は何であれ、自分は何を問



セミ紹介 国際関係演習 I

小野 哲

世界平和は超大国の専管が崩れ、国際社会総体の共同責任に転換したばかり。冷戦の均衡が解けた極東では海洋国日本の平和維持の分担がにわかに比重を増した。

海千山千の政治家さんもてあります今日の難問に、実はゼミ参加者も近接しているのに気付いたろうか。発足三月日の六月課題設定のペーパーを見る

と、過半のメンバーが夏休みをあてにする風だが、形ばかりとは言え東京サミットと選挙の喧嘩が重なり大変である。が秋口にはそれの思いの課題修正が実を結んでほしい。昨今N-I-S十二ヶ国も加わり百八十六国のひしめく世界、自治地域を算すれば二百を越す国際政治社会の現況から、

過不足のない海洋国日本の軌跡の認識を引き出すゼミ目標を、メンバーはどんな知識レベルで收集し、工夫を仕掛けるのか。それをどの資料の入手で間にあわせるのか、この各個に違う選択は見もので、皮肉でなしにゼミ終局の冬期にむけての楽しみである。

研究室の友人が言う、一年生は夏休みで高校はなれし、三年の夏に大学の自由のこわさを知ると、いかにも、四年の夏の就職さわぎが避けられないなら三年生の夏はゼミの正念場に違いない。

ということを実感した。そして出会うべき対象を模索し、出会った対象を追求できるのが学生時代の特権だと思う。

本年度着任して、「英語 I-A・II-A」を担当しているが、原文を読んだり異文化に接することで出会いが広がればと思う。掘れば掘るほど出てくる文学のおもしろさに私が出会ったのは大学三年の頃。みなさんにもそんなおもしろさに出会っていただけたら幸せである。

**敬和学園大学
公開講座（一九九三年度）**

『歴史・文学・コミュニケーション』

とき	講 師
9月17日（金）	教授 片桐 邦男
9月24日（金）	助教授 ジョーンズ B.
10月1日（金）	助教授 岩倉 依子
10月8日（金）	助教授 上野恵美子
10月15日（金）	講 師 北嶋 藤郷
10月22日（金）	助教授 永野 茂洋
10月29日（金）	講 師 野村 啓治
11月5日（金）	教 授 サンフオード・ゴールドスティン
11月12日（金）	講 師 千葉 愛子
11月19日（金）	教 授 孫野 義夫

テ 一 マ
鉄砲伝来と日本人
コミュニケーションと国際化
ルターの思想とその遺産
できごとの認知と言語表現“日英語の比較”
「ライフ」の伝説：M. Bourke-White
国民文学としての旧約聖書
異文化コミュニケーションの視点
日本の短歌
ギリシャ神話における転身物語
似ている。似ていない。“比較言語学粗描”

※会場については、第一日は開講式を兼ね本学で行い、その後は新発田市の生涯学習センターを予定しておりますが、現在新築工事を行なっており、変更する場合がありますので、本学総務係にご確認下さい。なお、受付は8月中旬頃から、参加費は3,000円を予定しております。

**一九九三年度授業科目
SYLLABUSについて**

本学では、今年度より「授業科目SYLLABUS」を作りました。SYLLABUSとは『研究社 新英和大辞典』によると、「講義・論文・試験要綱などの」適要、要目、大要、教授細目というような意味があります。この中で一番意に即したものは、「講義大要（要覧）」です。

「講義要覧」は、昨年度まで学生便覧の中に二十頁ほど掲載していましたが、今年度から授業科目数が増えること、ならびに学生の科目選択をより容易にすること等を目指して、「授業科目SYLLABUS」を独立した冊子として作成しました。体裁は学生便覧のA5判より一回り大きいB5

判で、頁数は百頁余りになりました。内容は大別すると、一、単位履修モデル表、二、卒業に必要な単位の内訳表、三、授業授業科目一覧、四、授業科目SYLLABUSになります。四の部分では、本学で一九九三年度に開講しているすべての授業科目の概要と講義予定、教科書等を担当教員別に紹介しています。

学生諸君は履修登録の際に、この「授業科目SYLLABUS」を参照することにより、卒業までの履修科目の年度別計画をたてたり、それぞれの科目の年間講義予定を知ることにより学習計画をたてることなどが可能になりました。

本学では、今後も学生諸君の勉学のため、さまざまな手助けをしていく予定です。

一九九三年度 第三回新入生オリエンテーション

今年度は、学生間の交流がある程度芽ばえた時期に実施した方が、さらに充実したプログラムとなるとの昨年の反省から、四月二十二・二十三日に実施され、会場は例年通り北垣原郡黒川村にある胎内パークホテルで行われた。

一日目の日程は、会場到着後、昼食をとり、開会式挙げての「求めよ」と題する延原宗教主任の講話から全体プログラムが開始された。今年のテーマは「ともに地球文明を創ろう」。本学の基本の方針であるキリスト教主義・国際主義・環日本海文化研究がこのテーマを目指していることが、北垣学長の講話から新入生に伝えられた。休憩後、恒例のスポーツ大会（綱引き）が、八クラスによる勝抜き戦で行われ、優勝・準優勝のクラス全員に本学後援会から賞品が出ることもあって、熱戦がくりひろげられた。結果、優勝は道重クラス、準優勝は桑原クラスであった。興奮もさめないうちに行われたグループ別

集会は、予め自己紹介、質問カードを提出、これを材料に「フリートーク」を行われ、「大学でスポーツをしたい」「友達を多く作りたい」「英語ができるようになりたい」など、大学生活への大きな目標を大いに語りあつていた。二日目は、二年次生によるボランティア活動について体験談をふまえ、本学のボランティア精神がこれから二十一世紀に向けて大切なものであることが話題とされた。午後からは、三年次生が、「上級生大いに語る」と題して、クラブ活動、イベント、留学などについて大いに語った。これから自分が営む大学での生活を実感したように思えた。

こうしたプログラムの中で、これから大学生活への夢と希望を大きくふくらませ、また少しの不安をもつて、全員が閉会式挙げにのぞんだ。静かな礼拝の中で、そのはやる気持をおさえつつ、再びバスで帰路についた。

就職戦線始動!!

本学の就職活動について

就職委員会委員長 菅野 浩

本学の第一回生もいよいよ来年は四年次生となり、新しい人生のスタートを切る為の大変な時期を迎えて就職活動に入る事となります。本学にとどてもこれは初めての事であります。厳しい社会情勢の下で、学生諸君がそれぞれ希望するところへ就職する事はかなりの困難が予想されますが、全学が一致協力してこれを実現させねばなりません。

本学では当初から就職委員会が組織されていましたが、本年の四月以降本格的に活動を開始いたしました。就職委員会は委員長ほか委員四名、これに就職係専任職員一名、大学就職部としては小柄ですが、全員一生懸命に努力しています。それに就職相談室が設置されました。ここには種々の就職資料が設備され、学生の閲覧あるいは相談に応ずる事ができるように整備されつあります。就職委員のうち二名は新潟大学で永い間卒業生の就職に接してきました。他の二名は大手企業から着任された方で、経済情勢や企業内容にくわしく、これまで求人側にいた方です。

さて、就職委員会としては大きく二つの課題がありました。一つは就職活動に対する大学側の取組み方、他の一つは学生に対

する就職指導法であります。これらの課題については他大学の調査を行なうと共に東洋経済、リクルート、日経などの著名な就職企業から講師を招いて勉強しました。その結果、上に述べたような大学側の体制の整備が行なわれ、さらにこれまでに、求人先に対する大学案内の作成、保護者懇談会の開催、企業の人事担当者との交流パーティの開催などが実施あるいは計画されています。夏期休暇あけには採用依頼の会社訪問が準備されています。

一方、三年次生に対する就職指導として四月に第一回就職ガイダンスを行ない、「就職の心構え、就職活動の進め方、応募の方法、就職試験」等について解説し、あとでこれをまとめて「就職ガイド」という冊子にして三年次生に配布しました。また就職希望調査を行ない、学生の希望を把握するとと共に今後行なう業種別就職オリエンテーションの参考資料としました。旅行関係、マスクミ、金融、建設のほか公務員、教員などが希望の多い業種でした。六月に入つてから実施した就職オリエンテーションは、「企業全般に対する就職活動」、「保険・金融関係」、「中学校教員希望者」、「県内企業について」、「公務員希望者」等がありますが、関心の高さを反映してか多数の学生諸君が熱心に聴いていましたし、講演終了後に質問もでてありました。また十月以降の実施計画としては、「旅行業関係」、「女子学生の就職活動」、「今年度の会社採用状況」等がすでに用意されています。またいくつかの有力就職企業から希望学生に直接企業情報資料が届くことになりますが、就職資料による企業研究は学生にとって良い社会勉強でもあります。さらに入年に入ってから、個人面接や模擬面接試験等を行なう予定であります。このほか会社見学や実地見学などはフィールドワークとしての教育効果が期待されるだけではなく、本学の知名度を広げるためにも実施してみたい企画です。

社会情勢を反映して会社の採用状況は極端に落込んでいます。おそらく来年度もほぼ同様な状況かとおもわれます。さらに来年度から県内に発足する幾つかの大学は本学の強力なライバルとなるでしょう。就職戦線は今後ますます厳しくなるかと思われます。本学の就職活動はようやく始まったばかりです。上級生・先輩のいない三年次生ですので、早目に就職指導を行なって関心と理解を高めてもらっていますが、卒業生の就職状況が本学のサバイバルに関わる重要な問題である事を認識していただき、今後ますます皆様の御協力を得て、学生諸君が高い就職率の下に卒業できるよう努力したいと考えております。



就職委員会打ち合わせ

左から孫野・仙澤・菅野・大海・西澤の各委員

就職ガイダンス講演要旨

六月十一日 東洋経済新聞社
メディア企画部長・編集委員

落合 恒男氏

講演要旨

一、就職の意味

(1) 収入の基盤を得て、社会人として自立する。

(2) 自らの能力を發揮する。

(3) 企業活動を通じて、直接又は間接に社会に貢献する。

二、就職先企業をよく選ぶ必要がある。

(1) 自分の志望、能力、興味、などから職業及び企業をよく選ぶ。

(2) わが国では、転職はまだ評価されないので、新卒の時の企業選択が重要である。

(3) 企業研究は、大学で学んだことのフィールド・ワークと思って、大学での勉強の応用だと思ってやる必要がある。

三、企業側の選択基準は明確である。

(1) 企業活動の原点は、利益であり、これに貢献してくれる人物。大卒の場合には、さらに将来の幹部要員としての期待。

(2) まず健康であること。

(3) 企業の社風などに合うかどうか、業務遂行能力、やる気などである。

四、就職の段取り

(1) 学生自身が、自ら積極的に動くという意欲が不可欠である。

(2) 三年生の十二月頃に、就職情報会社（リクルート社、日経ディスコ社、UPU、ダイヤモンド社）から、就職情報誌及び関連の資料が学生に配布される。

(3) その意味で、三年生は少なくともこの一年で、面接も含め自ら語れる何かを得るように、心掛けて学生生活を送ることが、最大かつ最良の就職対策である。マニュアルに頼っても意味はない。

(1) 女子は厳しい。既に勤めている女子社員が辞めなくなってしまっており、かつ男子が採れる状況では、調節弁として使われる傾向が強いからである。

(2) OLというような、又は総合職にこだわらず自分のやりたいこと、能力を良く考え、企業を選ぶ時である。昨年の例で、アナウンサーになるということで、東京はもとより北海道から関西方面までの地方局を歩いて、採用されたというケースもある。今こそ、自分をよく見つめておく必要がある。この時企業側は、すでに人物評価を行っているのであるから、訪問のマナー、質問への受け答えなどキチッと行う心構えが必要である。

正式には四年生の七月一日に個別企業の採用活動の解禁、八月一日以降選考活動、十月一日内定というのが就職協定に決められているが、これは自主取り決めであり、実際はもう少し早く、八月までにはほぼ決着がついていると考えて良い。但し、今年は不況で買手市場になってしまい、協定通りの動きもみられる。

五、選考方法

(1) 試験を課すところもあるが、ほぼ面接できまる。

(2) 人気の高い所では、何段階にもわたる面接が行われる例がある。（スパイラル面接）。

(3) ニュアルによる例が多いが、企業側はそれを理解しており、ニュアル通りの学生への評価は低い。やはり、学生時代に何をやったか、それを語ることこそ重要である。

六月十八日 新潟県教育廳
義務教育課 参事

山田 穣氏

新潟県の教員採用状況や、こんな人が先生にななつてくれたら、という話をいたします。

まず、教員採用についてだけでなく、一般企業などの情報をたくさん収集し、それらの中から、自分のやってみたい仕事や、興味のある仕事をつくことがよいと思います。

要項にあります、今年の採用検査時期は七月ですので、あと一ヶ月後になります。みなさんは三年生ですので、来年の試験までちょうど一年となります。一年間の準備期間というのが、長いのか短いのかは準備の仕方によりますが、そろそろ準備開始の時期かと思います。新潟県の教員採用の状況ですが、中学校では来年度は百八十人の採用を予定しています。要項では百八十人となっていますが、これは最低

限の数で、実際にはそれ以上採用することもあります。

今年度の採用は、二百四十人を予定していましたが、実際には中学校・特殊教育諸学校あわせて約三百四十人採用いたしました。

語科だけに限りますと、今年度受検者は八十七人、採用者は五十九人で、一・四七倍。全国の状況をみても、二倍弱の倍率は、新潟県くらいだけとなっています。東京近辺では約十倍。新潟県では子供の減少の仕方が緩やかということと、教員の退職者が比較的多いため、倍率が低くなっています。今年度の傾向をみると、県内出身者ではなく、県内の大学の卒業者でもない受検者が多数あり、採用もいたしました。この

ように、新潟県としては県内関係者以外の採用にも門戸を開いていますので、県外出身の方も、ぜひ受検していただきたいと思います。さらに、今後の採用状況については、英語科の場合、先生の需要がしばらく続くと思われます。平成三年度から中学校の学習指導要領が変更され、選択の時間が一時間になりました。そのため、先生が不足し、平成四年度の採用の際に、英語の先生が欲しいという希望が多く出てまいりました。現場からの希望数は九十人ほどありました。が、受検者が八十一人。ある程度のレベルでないと採用できませんので、採用数は四十九人。不足分は臨時の先生で対応いたしました。今年度の採用も同様の状況でした。このように、新潟県では英語の先生の需要が高まっていますので、受検すれば採用の可能性は非常に高くなっています。

さて、検査についてですが、まず、一時検査は専門科目の英語で実施されます。その後、二次検査は教職問題および適性検査。日をあらためて面接試験。そのほかに実技検査もありますが、中学校英語の場合、特に実技はありません。また、全員に水泳と体力テストを課しています。水泳は泳法は問いませんが最低二十五㍍は泳けること。体力テストは普通にグラウンドを走れ

ることなどです。

専門科目については、内容の濃いものが提出されると思います。また、専門だけでなく、文部省の学習指導要領の内容、教科書の内容を捉えているかどうかという問題、教科教育法の問題も出題されます。二次検査の教職問題は一般的な教育心理学、教育学、教育方法、保健、同和教育といった内容です。教職問題を勉強する際に、県の「実践上の努力点」という本を参考にするよいと思います。面接では、英語科の場合AET(英語指導助手)とともに指導する機会が多くなっていますので、英語の会話力が求められます。

また、現在、全国の学校では多くの課題を抱えています。学校週五日制の問題、新指導要領の問題、選択履修幅の拡大、チーム・ティーチングの問題、業者テストの問題など、新聞等でもときどき取り上げられていますので、読み通すことなどが一般的な知識を付けていくことになると思います。

最後になりますが、新潟県の教員にはこんなになつてほしいと思います。それは人間が好きな人です。子供の過ちもある程度許容してくれる、子供の痛みをわかっていて、そういう人に教員になつてほしいと思います。いじめ、登校拒否、校内暴力といろいろと問題があります。しかし、子供なりに自分でもわからぬ理由を抱え込んでいるのです。そういう子供を包み込んでいく、そういう人に教員になつてほしいと考えます。その基本は人間が好きだということです。そして、朗らかで、少しくらいの失敗があつても笑って過ごせることです。また、学ぶことの好きな人であつ

てほしいことです。学ぶことの好きな姿勢を子供に見せることが教育です。

今日お話を聞いていただいた方の中から一人でも新潟県の教員になつていただけたらいいんうれしいと考えています。教員というのは大変おもしろい仕事です。ぜひ、一緒に仕事をしたいと思います。

六月十八日
日産火災海上保険株
新潟支店店長

山下策彬氏



私の入社は昭和四十三年で、現在までほとんど営業中心でしたが、四年間だけ本社の人事担当を経験しました。その時には一年に千名ほどの中学生と面接していました。

就職協定では七月一日ですが、需要と供給の関係で就職活動にも影響しており、企業の採用活動は早くなっています。

今日お配りした資料に出ていますが、文系の男子学生の人気ランキングの第一位は三菱銀行で、第二位は東京海上火災となつており、ベスト十の中の六社は金融機関あるいは保険会社です。当社は損害保険会社の中堅といったところです。

現在元請けの損害保険会社は二十一社あり、生命保険以外は全て損害保険です。生命保険は人に対してだけですが、損害保険は物も対象としています。ラグビーの精神もあります。ワンフォア オール、オール

「一人は全員の為に、全員

は一人の為に」が保険の基本理念であり、保険会社はその仲介をやっているわけ

です。

保険会社の仕事は、大きく分けて管理部門と営業部門があります。管理部門には、総務、財務、経理、業務等があり、営業部門は、代理店を指導教育し、独立させる仕事や、損害調査（査定）の仕事があります。端的にいえば、契約の引受と保険金の支払が大きな機能と言えます。そして大事なことは、公平であるということです。

当社は全国で三百八十九の店があり、四年生大卒の学生の場合は、通常総合職に就いてもらいます。また、男子は転勤が非常に多く、北海道から沖縄まで、日本全国に転勤を覚悟しなければなりません。これは金融機関はたいてい同じ事が言えます。面接でも転勤が多いが大丈夫かと聞いて、「何処でも行く」と答える学生を求めます。私は入社以来三年に一回くらいの間隔で転勤してきました。よほど精神力がタフでないと勤まりませんね。

学生の就職活動、企業の側で言うと採用活動ですが、昨年と今年では情勢が様変わりしているのは事実です。不況、円高、ガット、ウルグアイラウンドといった中で、今年は非常に厳しい就職戦線といえます。当社の場合も昨年に比べ、採用は相当数減ることになると思います。損保は軒並同じ事が言えます。なおいえば、これだけの構造不況が長引くと、企業のリストラクチャリングが当然行われていますから、よりスマートな体制へという傾向にあり、今年度の状況から考へると、来年度も非常に厳しいと言えます。実は昨日も当社に新潟大学の学生が企業訪問あるいは企業研究できていましたが、学生の間にも不安感が広がっているようです。従って、学生の本分は勉強にあるわけですが、自分の一生を左右しかねない就職は、早目に活動しなければならないと思います。

第一段階は、OB訪問又はリクルーター訪問で、その中でその会社の社風なりイメージなりを自分で掴んでいくのですが、これを称して企

業研究といいます。通常は送られてくる就職情報誌または自分で書店へ行ってみて企業研究を始めますが、銀行、損害保険業、証券会社等、まずどこかの会社が自分に適していいるか自分自身で判断しなければなりません。OB訪問、企業研究をするなかで、よく履歴書の志望欄にあるように、貴社の社風がいいからとか、貴社の社風が自己的性格に最適とか皆さんそう書くのですけれども、でもそれだけではありきたりなのです。むしろそういう時に、リクルーターから聞いた話などを折り込んで志望動機を書くと、この人は違うなという感じを受けます。これは本音のことです。

次に第二段階としては、いよいよ人事部からの面接の呼び出しがあります。当社の場合、一次面接から四次面接くらいまであります。一番最初は人事の若い社員が面接します。それから次の段階に進むと次長クラス、四番目に人事部長が面接します。これは、どこの企業へ行ってもだいたい同じで、一次から三次くらいの面接があるはずです。その難関をクリアしていかなければなりません。その中で一番大切なことは、やはり自身をしっかりと見てもらうことです。いたずらに自分自身を造っても、面接担当者はプロですから、最初は立派なことを言っていても「二次、三次と進む」とどうも一次面接と言っていることが違うと判つてしまいいます。私の経験からすれば、それでも、素直な自分を見てもらい、自分を実力どおりさらけだすことが必要だと思います。最終的にはその段階でペーパーテストもあるでしょうし、あるいは適性検査をするような企業もあります。しかし、健康診断に行ってくださいと言われたら、七割はいい感触だと思います。金融機関は概ねそうですが、当社の場合はOKを出してから健康診断か、あるいは健康診断までいったら七割はOKだと思います。ただし、健康診断でひつかかるような場合は駄目です。

企業の呼び出しがあります。当社の場合、一度は人事担当者は、採用したいと思って一生懸命やっています。落としてやろうという人事担当者はいません。やはり企業を代表して、選考するわけですから、いい人材を探りたい、採用したいという思いが強いのです。落としたいと思って選考しているわけではないということを理解しておいたほうがいいと思います。ですからこそ皆さんも真剣にぶつかる必要があります。

学生のことについて考えること 飯沼 正志

わが国では、終身雇用、年功序列、会社中心主義といった「伝統的習慣」に変化が見え始めてきた今日、各企業は、業績不振を背景に、人員削減、退職勧告、年俸制導入などを行ない始めている。人事制度の大変化の予兆を感じるとともに個々人の能力を重視する方向を強めつてあることを感じる。

他方、今日人気の出ている職種としては、公務員が挙げられる。これは景気の波に左右されない安定性が買われた結果だ。しかし、国民から肥大化する官僚機構の簡素化を要求されながら、「公務員は永遠です。」の言葉が残ることはないと思議な気もする。日本全体が二十一世紀にかけて、終身雇用制を維持できなくなっているというのに、いつまでも公務員だけが、別世界

血などで入社式で倒れたりしないようになくなっています。

今お話をしたように、いわゆる企業の採用活動というのは、面接とテストと健康診断で決めます。全国の大学から幅広く人材が募集される中で、敬和学園大学の皆さんも来年初めて就職活動をするということになりますが、これは決して企業の人事担当者との戦いではないのです。企業の人事担当者は、採用したいと思って一生懸命やっています。落としてやろうという人事担当者はいません。やはり企業を代表して、選考するわけですから、いい人材を探りたい、採用したいという思いが強いのです。落としたいと思って選考しているわけではないということを理解しておいたほうがいいと思います。ですからこそ皆さんも真剣にぶつかる必要があります。

の中に存在することは、これから難しくなるのではないか。

最近の企業社会でよく言わるのは、「会社中心主義との決別」。たしかに欧米人が指摘するように、働きすぎがいいわけがないし、人生の中心に会社を置くことはないのではないか。

私としては、人生を学びつづけることにより楽しみを得るようにならう。

人間遊びばかりで暮らすわけにもいかないだけに、自らの時間、労働を提供する会社選びが安易であってはならないはずだ。

生涯時間のかなりを費やす職場で満足が得られないで、人生を楽しくすることは、至難の業であろう。まず、人生を謳歌するためにも、仕事に対する思いをより的確に認識する必要がある。

人生において、夢、思考、仕事を軽視することはできない。そもそも会社中心主義とは、サラリーマンが会社に依存するから生まれてきたものにほかならない。高度成長時代は大量生産、大量販売の時代で会社に依存しながら命令されるがままに、黙々と働く社員が重宝がられた。しかし現在、企業社会の土台自体が、生活者のゆとり、豊かさを重視する方向への変革が進むにつれ、ゆきはじめるにつれ、会社にもたれかかるだけの社員は、受け入れられなくなるであろう。ビジネス社会で幸せを求めるならば、我々個人が個々人の性格や、能力に基づいた自立・自助の精神の確立が必要になってくる。

また、企業としてもこのような変化やリストラを担つてくれる自立した社員の登場を待ち望んでいる経営者も多いのではなかろうか。

会社に寄りかかるつもりはないから、会社も俺には期待する。だけど自分の食いぶち以上ものは稼いでみせるというのはタフだろうけど、そのくらいの気概は持つてみたい。

リレー随想◆◆◆

チヤペル便

リレー随想①
延原 時行 宗教主任

本学も三年目に入り、学生諸君の目のかがやきが違ってきた。先日もふと、こんな会話を小耳にはさんだ。

「オレってキリスト教で最近物考えているのかなあ。キリスト教ってけっこう影響力つよいからなあ」

「ボクもそんな気がするヨ」

きくともなしに聴いていて、そぞろもうかれこれ三十七年前の自分の同志社入学時のファーリングを憶い出していた。「中一で入信していちばんうれしかったのは、キリスト教を通して世界の歴史が内面からわかるようになったことだが、今これを同志社はつよめてくれるのではないか。」

思うに、キリスト教精神の醍醐味は、この「キリスト教で物を考える、物が見えてくる」という文明形成と通じあつた感覚であつて、キリスト教信仰のためのキリスト教信仰などその名に恥じる。

ところで、二十世紀もドン詰りのこんにち、キリスト教主義大学の最大の務めは、もはや明治以来のキリスト教指導層が力説してきた「近代化」ではない。歴史学者ボール・ケネディの近刊の書名ではないが、「二十一世紀の難題に直面して」近代化以後（ポストモダン）の「グローバル文明」を地球上のいろいろな人種、宗教、思想、言語、地域、立場の人達と共にでかたちづくる崇高な冒險なのだ。

——と、まあこのような考え方で私共のキリスト教と教育委員会（山田耕太、永野茂洋両助教授と筆者で構成）は、北垣宗治学長の指導のもと、本年前期のチャペル・アワーの運営にあたってきた。講師、説教題は左の通り。

リレー随想②
山田 耕太

チャペルという言葉の起源は、遠く紀元八世紀まで溯る。フランク王国の王達はツールズの聖マルティン（四世紀）の遺品である法衣（カペラ）の威力を信じていた。そして、それを保存する堂が建てられ、次第にその言葉の意味が聖人の遺品を保存する建物に転じていった。やがて、教会とは別に学校や病院にも礼拝堂ができ、チャペルとはこれらの建物を指すように意味が拡張されていった。宗教改革以降のイギリスでは、国教会から分か

れた非国教徒のメソディスト派などの教会もチャペルと呼ばれている。

大学とチャペルは切っても切れない関係にあることは、オックスフォードやケンブリッジなどの中世からの大学のカレッジを見て廻ると一目瞭然である。カレッジの回廊の一角にはチャペルと食堂があり、これらは神と、また人と向かい合って、自己と共同体を形成する場所であり続けてきたことが一目でわかる。また、それは中世の大学が修道院から発祥してきたことを如実に示している。そして、修道院の写字室は大学の図書館へと変わつていった。

現代の大学にも随所に中世の遺産が受け継がれている。キリスト教主義大学のチャペルは、このような古い伝統を受けついで今日まで至っているものの一つである。チャペルは依然として、アイデンティティを確立し、コミュニティを形成する場として用いられている。また、同時にそれは自己を超える存在があることを知られる場でもある。しかし、二十一世紀を前にして、世界は変貌しつつあり、大学も変わろうとしている。当然、キリスト教主義大学も変わろうとしている。このような時代にあって、諸宗教との対話、諸学との対話という新しい視点で考えて、地球規模の視野で物事を見つめ、依然として古い言葉の中にある新しい真理を、新しい時代の中に生かそうと試行錯誤で模索していくなければならない。現在の敬和のチャペルという時間は、ゆっくりとではあるが、確実にその歩みを示そうとしているのではないだろうか。そして、やがてはこのような観みを経て形成された、新しい伝統を盛るチャペルという建物が建てられることになるであろう。

〈著者紹介〉

著者 神田より子助教授
書名 「神子の家の女たち」
発行所 株東京堂出版

本書は、序章に当る短い「はじめて」の後に、宮古を中心としたこの地域の神子さんの歴史と伝承について論じた第一部「歴史と伝承のはさま」、神子さんたちからの聞き書きにより神子さんたちの生活を論じた第二部「神子の家の女たち」の三部から構成されている。

著者は、神子さんたちと地域社会の人々とのつながりを強調し、それゆえに地域社会の変化が、人々の要望の変化となり、最終的には神子の活動の変化となることを説明し、同時に、そこには一貫して祈りのこころがあること、神子さんたちが人々の「こころ」の代弁者として存在することを強調しながら、全体の締めくくりとしている。

著者の手法は、イダッコさんたち自身の語りを中心にして、彼女たちにまつわる様々な物語や彼女たちのライフヒストリーを再構成し、その記述を進める中からイダッコさんたちの生活およびこの地域の人々の信仰生活の実態を浮び上がらせようというものである。こうした手法には好感が持てるが、部分的にはこの手法が不徹底に思えるところも残っているようだ。また、単に研究者としての立場からだけでなく、イダッコさんたちのいわばファンとしての立場から文章を書こうとしている姿勢も面白い。

次に特徴的なのは、特に第二部第二章の記述から、伝承と創造による付加・改変のプロセスとが具体的に明らかにされていることである。しばしばこうした変化についての指摘はなされるけれども、それが具体的にいわば情景として描き出されることは稀であり、これは著者のとった手法のもたらした成果といえるだろう。

ところで、以上の点とも関連するが、評者はこの本の性格づけがやや曖昧な気がしている。基本的には一般的の読者を想定して書かれているようであり、かなりの説得力をもつて一気に読ませる著者の力量には感嘆する。だが、所々で突然古文書が出てきてそれをめぐる話が続いたり、特殊な用語が何の説明もなく出てきたりする点や、「はじめに」の記述と本文の中でもちらほら見られる先行研究への若干の言及と批判的な言辞等々をみると、専門書的な意図も込めたとの著者の意向がうかがえるようでもある。ともあれ、ここで欠けている点、すなわち研究史や論争の経過、その中の自説の位置づけなどについては、著者の次作以降に期待したいと思う。

本書は、これまでのシャーマニズム研究の中でもほどんど視野に入れられることのなかった神子さんを正面から取り上げた初の著作である。これらの分野に関心を持つ研究者にとっては新たな研究の模索として、そしてまた一般的の読者にとっては優れた読み物として、この本が様々な形で広く読まれることを望みたい。

（佐島修道大学
高田峰夫）

〔高田先生のお許しを得て、より詳しい書評から抜きました。――編集室〕

神子の家の女たち

神田より子助

（株）東京堂

FROM CAMPUS

4月

- 1 辞令交付 教員8名・職員2名
 第27回教授会
 教職員合同昼食会
 5 第三回入学式
 後援会総会・懇親昼食会
 6 一年生プレイスメントテスト
 7 新入生歓迎公開学術講演会
 「地球に何を返せるか」
 東京大学 藤倉皓一郎教授
 9 前期講義開始
 大学野球部 北関東甲信越大学野球連盟春季リーグ戦参加
 14 新発田市・聖籠町議員協議会来学 学長講演
 16 後援会役員会
 21 イベントサークルによる新入生歓迎ミニコンサート
 22 教職課程説明会・就職説明会
 新発田市・豊栄市・村上市新採用職員研修のための校舎見学

5月

- 11 カリフォルニア州立大学サンベルナルディノ校 リンダ・チェイフィー女史、ジョイス・ヘンソン女史来学
 12 第28回教授会
 13 「現在におけるキリスト教主義研究フォーラム」第4回研究会「新島襄における福音の理解」
 講師 北垣宗治学長
 履修登録確認日(2・3年生)
 14 履修登録確認日(1年生)
 空手部による新敬大プロレス
 <新入生歓迎シリーズ'93>
 25 学校法人敬和学園の監事による内部監査
 26 常任理事会・理事会・評議員会
 28 近寅彦新発田市長 アセンブリ・アワで講演
 29 ミスあやめ花嫁人形コンテストで本学の2年生、本間千春さん最優秀ミスに選ばれる



5/28 近寅彦新発田市長、アセンブリ・アワで講演

CAMPUS

キャンパス日誌



4/7 新入生歓迎公開学術講演会

22~23 一年生胎内オリエンテーション

26~27 履修登録日

30 創立記念日の振り替え休日

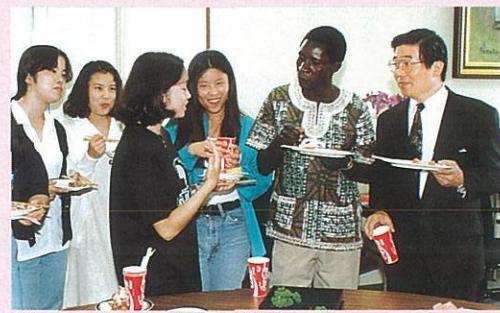


4/22・23 一年生胎内オリエンテーション

4/21 新入生歓迎ミニコンサート

6月

- 2 第29回教授会
 9 休業日
 16 「現在におけるキリスト教主義研究フォーラム」第5回研究会「浄土教の起源とキリスト教の起源」講師 安藤弘教授
 21 アフリカ交流セミナー



6/21 アフリカ交流セミナー昼食会にて